

新宮山彦ぐるーぶ第1928回―1

春季連休中の持経宿への来宿者の対応と作業など

◇実施日：平成29年04月28日(金)～5月01日(月)迄
05月02日(火)～04日(木)迄

4月28日(金) 晴れ

◇参加者：村吉光夫。

1名。

お母ちゃん行ってくるで、顔見せて・・・、バカと言っていないでさつさと行き！ 夫婦を四十年やっているところな調子で、まらず円満に出発。

下北山森林管理事務所に立ち寄り、新任の高木主席森林管に挨拶。着任早々に白川林道でパンクの洗札を受けたそうさ。

14時頃に持経宿着。小屋を通過して水場を確認。岩肌を伝う水は僅かだがホースのお陰で取水は可能。小屋に戻ってお堂の幟を立てる。車で平治沢に行つて水汲み60リットル。毛布干し40枚。

小屋前のベンチに手洗い水(タンク)を置き、仮設のホース付き配水枡を設置。これで水ハネも無く、手を洗った水が足元を流れることも無い、ヨシ！と自画自賛。

トイレが洋式になり、向きが変わったのに合せてトイレレットペーパーホルダーを取付ける。掃除をして芳香剤と害虫忌避剤を交換。初日は忙しい。宿泊者4名。囲炉裏を囲んでコーヒーを飲んでゆっくりしていただく。

4月29日(土) 快晴

◇参加者：村吉光夫、豊嶋 寛、樋口義也。

3名。

椎木 堯、今野孝祐(順峯奥駈行中)、上村洋司・和美(南奥駈道の前鬼く行仙宿の踏査中)

残りの毛布を全部干す。以前より手間がかかると思ったら枚数が

かなり増えていた。でも古くて傷んだ物や極端に大きい重い物が無くなっていたので助かる。防虫剤ムシユウを交換。

豊嶋・樋口さんが到着。平治宿に行かれると云うので、水場の確認と千年檜祠に幟を立てることをお願いする。大先輩で恐れ多い事だが・・・。

夕方までに5人が小屋入り。しかも早々に寝られたが、その後19時頃から以降に6人が小屋入り。豊嶋さん達に対応をお任せして私はお堂で先に就寝。
(記 村吉)

昭和43年12月20日～22日 太古ノ辻から南に入り、波トタンで囲まれただけの平治の宿にササを敷いて泊まり、尾根筋が、わかりずらく共に苦労した友は今居ない。

大先輩の豊嶋氏から持経宿へ行こうと誘われ、二つ返事で彼の車の人となった。

まず平治宿の水場点検で、詰まっている小石等を取除いた。平治小屋には、4人居たがバテぎみで明日はエスケープルートからタクシーで帰るそうさ。

持経宿には明るい内に居た方々と19時過ぎ3人、23時頃ひとり着いて会の者3人と合計14人でした。
(記 樋口)

4月30日(日) 快晴

◇参加者：村吉光夫、豊嶋 寛、樋口義也。

3名

豊嶋さん達は、北向きに巡視に出発。私は1回目の二泊三日の最終日。風が強い。

部屋の掃除、便所掃除、水汲み、そして通過する登山者と言葉を交わしていると、たちまち時間が過ぎる。今年は、トレランで奥駈道を二泊三日で走り抜ける人が目立つ。

平治の小屋に泊まるという男性が立ち寄って「山彦ぐるーぶのお陰で安心して歩けます」とお礼を述べられ、協力金二千円を差し出された。有り難く頂戴して志納箱へ。「ゴルゴ13が2年くら

い前に大峯に来た」話を教えてもらおう。知らなかったなあー、ゴ
ルゴ13は、山伏だった？

豊嶋さんたちが戻って来られて、後を託して帰宅。(記 村吉)

樋口・豊嶋は、上村和美さんから太い支障になる倒木があるとの
情報を聞き、5時半に出発し、北の地藏岳(小守岳)までのルー
ト巡回で、太い倒木はチェーンソーでないと伐採除去出来ないの
で、鋸で枝を切り、歩くのに支障無い様にすると共に鋸で計3本の倒
木処理をして、歩行に支障が無い様に切除除去した。小屋には1
4時半頃に帰って来た。
村吉氏は、16時頃に帰って行ったが、毛布を2日間で全部干し
て下さり、平治谷から補給の飲料水も満タンで助かりました。
今夜は、来宿者4人。

5月01日(月)晴

◇参加者…豊嶋 寛、樋口義也。

2名。

来宿者を送り出し、用事があり8時半過ぎの早目に下山した。

以上(記 樋口)

5月02日(火)

◇参加者…村吉光夫。 塩川真武(順峰中)。

2名。

再び持経宿へ。午後早々に男性一人が投宿。話していると私と
同じ高校の卒業とわかり遠慮が無くなったのか、持ち過ぎた荷物
の軽量化を図り「使って下さい」と食料等を差し出される。私の
炊飯釜を使って彼の米を炊き私もそれを食す。

「テン場を教えてください」男性一人と女性一人、各々単独でや
ってくる。以前は水場周辺で張れたが、今はガレで無理。池郷林
道の膨らみ平地を教える。女性は夏になると南アルプス北岳の小
屋のバイトをしているそうだ。翌朝の出発前には、小屋に来られ
て「お世話になりました、半分ですけど」と云って千円を差し出

された。テント泊の人が志納金を届けて下さったのは初めてだ。
小屋には男ばかり5人。囲炉裏を囲んでコーヒーを飲み夜が更け
る。山彦に参加するようになった塩川君も居て「山彦ではすぐに
名前を覚えてもらいました」塩川先生と同じ苗字だから、一回聞
いたら忘れない。今年の夏は、北アルプス船窪小屋でバイトする
そうだ。

5月03日(水)曇り

◇参加者…村吉光夫。

1名。

今日は、高気圧のど真ん中、爽やかに晴れ渡る青空を期待した
のに一日中落ち着かない曇天が続く。
千年檜の先の崩れ易くなっている所を見に行く。ここは木の根
の露出が気になる。踏まれて折れたり枯れたり、遠からず崩れた
り木が倒れたりするだろう。この日は、私のGW最低タイ記録、
宿泊者2名。

5月04日(木)霧雨後雨

◇参加者…村吉光夫。

1名

私の最終日。今日から宿泊者が増えるだろうと思いつながらの撤
収は、後ろ髪を引かれる思いだ。千年檜祠の幟を撤収。

下界の天気予報は、まだ大丈夫なの嶺中は霧の中、寒い。

火の始末を考えて早めにストープに火を入れて、後を託せる人
が見つからなければ、消して帰ろうと決め点火。

霧から霧雨そして雨となつて行く。

午後の早い時刻に二人の女性が到着。先に進みたいが一人が体
調不良なので、休憩して様子を見たいとの事。ストープで温まっ
てもらおう。火の番をお願いして最後の水汲みに出る。

戻るとこれまた1人が足を傷めたと言う男性男4人組が居て宿
泊決定。続けて女性二人も来宿。火を入れておいて良かった。

男性4人組の一人は、島野さんと云い、醍醐寺三宝院で勉強さ
せてもらっていると話し、お堂で勤行される。

小屋の維持改修を絶賛して下さり、持経宿改修各団体からの寄付金一覧表を見て「三宝山が無いのはいかん、俺が一言云っておく」と。

小屋宿泊の志納金の最高額が行仙宿で三十万だったと話をすると宿泊者から「当てるから言うな!」・・・。小屋全体がクイズ大会の様相を呈して、和気あいあいと賑やかになったが、次々と出てくる名前は山岳関係者ばかり。ヒントが男性、そして政治家となったところで、最初に出たのが塩川先生の名前だった。

皆さんいたく納得され、この後に到着した宿泊者には、志納金の額が「二千円以上三十万迄」と説明される様になってしまった。

島野さんに説明した事は、他の人にも上手に伝えて下さり、寝る場所の割り振り方やストーブの段取り等確認して下さり「後は任せて!安心して帰んな!」と言って下さる。

他の宿泊者にも心地良く指示を出したり、様子を見て「私より上手です、管理人代理に任命します。来年は管理人で来て下さい」とお願いをする。

最初に到着していた体調不良の二人も下山することになり、荷物だらけの座席を片付けて乗って頂き、16時に小屋を後にする。

(記 村吉)